

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370600484		
法人名	社会福祉法人なごや平和福祉会		
事業所名	グループホームへいわ		
所在地	愛知県名古屋市中区平和2-2-36		
自己評価作成日	平成30年10月31日	評価結果市町村受理日	令和元年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2370600484-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2370600484-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

勤務年数が3年以上の職員でがんばっています。ケアの質の向上を目指しています。御家族の状況に合わせて、連絡媒体の多様化に努めることで、家族との密な連絡を行っています。その情報を職員間で共有することで、スローガンである「笑顔で元気に暮らしたい」思いをより具体的に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営法人は、様々な介護サービスの提供が行われている社会福祉法人であり、近隣地域で生活している方の様々なニーズに対応した支援が行われている。関連事業所で支援を受けながら、利用者の状況に合わせてホームに入居することもできる。併設事業所内には、地域の方との交流も可能な共有スペースが確保されており、地域のボランティアの方による複数の教室が行われている。ホームからの利用者も参加する機会をつくり、地域の方との交流にもつながっている。理念にも掲げている利用者が笑顔で元気にホームでの生活を継続することができるように、日常生活の中で利用者一人ひとりが参加する場面をつくるような支援が行われている。1ユニットのホームである利点も活かし、日常的に職員間で情報交換を行いながら、利用者の意向に合わせた生活の実現に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念、スローガンを居間に掲示し、共有し、ミーティング、日々のケアの反映に努めています。	利用者一人ひとりがその人らしく生活することができるように、利用者が毎日の生活を笑顔で暮らすことを目指した内容の理念を掲げている。理念をホーム内掲示し、日常の支援を通じて職員間での共有に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	敬老会、小学校の運動会などの行事に参加、近隣のカフェを始めとする様々な地域資源を活用しています。散歩の途中で近所の方との会話やあいさつを行っています。	地域の方との交流については、関連事業所を通じた交流や事業所内に交流スペースを設ける等、運営法人全体で行われている。ホームでも地域の行事の際に参加したり、中学生の職場体験の受け入れやボランティアの方との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中高校生の体験学習、専門学校の実習の受け入れを行っています。ボランティアを受け入れて、認知症の方の理解や支援を深めて頂く様努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	活動を積極的に報告し理解を深めている。参加して頂いている方々に意見を頂き、参考にしている。	ホームの状況等を記載した資料に基づいて報告を行いながら、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、会議の際には複数の地域の方の参加が得られていることで、地域の方との情報交換にもつながっている。	会議の家族の出席が限られている。ホームの取り組みを知ってもらうためにも、出席への継続的な働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	実地指導、事業者説明会の参加や事故報告など、事業所としての責任を果たしている。社会福祉協議会の募集チラシによってボランティアを確保することができている。運営推進会議での意見を報告している。	運営法人で様々な介護サービスの提供が行われていることで、運営法人を通じて市担当部署との連携が行われており、ホームでも利用者の受け入れ等の協力が行われている。また、地域包括支援センターとも定期的及び随時の情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員、身体拘束をしない事は当然とし、安全確保につとめ、あんな暮らしを支援している。但し、安全確保の為、夜間、エレベーター、内階段はロックしてある。	ホームは建物の5階と6階にあり、利用者も下の階へ降りることができることで、併設の事業所とも連携した利用者の見守りに取り組んでいる。法人全体で専門の委員会を組織し、職員研修等の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員は虐待をしていないという意識を持っている。言葉、態度、接し方など、相手の気持ちを傷つけないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	キャリアパス研修として、成年後見人制度についての講義を受けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を十分に設け、説明を行っている。疑問等については、その都度お答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時などに意見を伺っている。	ホームでは家族との交流会を行いながら、交流の機会をつくっている。家族からの要望等については、内容にも合わせながら管理者や運営法人の施設長による対応が行われている。また、運営法人とホーム独自の便りの発行が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送りを行う際、常日頃行っている。	毎月の職員会議の他にも、日常的にも職員間での情報交換の取り組みが行われており、職員からの意見をホームの運営に反映する取り組みが行われている。ホームの職員体制については、非常勤の職員が多いこともあり、随時の意見交換に取り組んでいる。	非常勤の職員が多い状況でもあるため、管理者が職員と個別面談等は随時の対応となっているが、定期的な情報交換が増える取り組みにも期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている。	コミュニケーションを密にし、個々の特性や思いを共有できる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	3ヶ月おきにグループホーム部会に参加し、他グループホームの良い所を取り入れる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前、見学、面接時に十分時間をとり、ご家族にも情報を得て、不安なく、納得して入居して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御本人と家族の想いを受け止め、本当に必要なサービス、支援は何かを見極め、丁寧に相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	寄り添って毎日の暮らしを共にする中で、入居者から学ぶことも多々あり、お互いを必要とする関係を築くことができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族に何でも相談できる関係作りが出来ており、積極的に協力して頂いています。家族と一緒にご本人を支えていく、そうした想いはご家族にも同様であると感じられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御家族はよく来所されます。	近隣から入居している方や関連事業所から移行している方の中には、外出時等の際に挨拶を交わす等、馴染みの方との関係継続にもつながっている。また、家族との外出の機会もつられており、喫茶や買い物等の他にも、自宅で家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	各人の関係を見極めて席の配置や外出時の組み合わせなど、配慮し心地よく時間を過ごせるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	第一に御利用者のご家族の意志を尊重している。退所された後の交流はありません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	可能な限り、本人の希望、意向を大切にしている。面談や随時の会話を通して御家族からの情報を得ている。	1ユニットのホームである利点を活かしながら、日常的に職員間で意見交換を行う時間をつくり、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。毎月のカンファレンスを実施しており、定期的なアセスメントにつなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や本人、ケアマネからの生活歴などの情報を伺いファイルにまとめ、全職員が共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	各人の日々の様子をバイタルチェックと共に個人記録に記載、さらに申し送りや各種の記録により、全職員が把握できるようにしている。必要に応じて、職員間で話し合いをして対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	半年に一度、家族面談を実施、ご本人、ご家族、職員間で適宜話し合いを行い、介護計画に活かしている。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた見直しも行われている。また、利用者の日常生活の記録を職員間で細かく残しながら、介護計画の内容のチェックにつなげる取り組みが行われている。	職員間での毎月の利用者に関するチェックは行われているが、定期的なモニタリングの実施が不十分な点が見受けられる。今後に向けたモニタリングの内容の充実にも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人ファイルに分かりやすく記載し、情報を共有している。一人ひとりのケアについて、気づきや工夫など、情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の趣味や意向に沿い施設内での習字教室や、紙芝居、太極拳、尺八などに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事(夏祭り、敬老会)などに参加したり、コンビニへ行くなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隔週の往診と提携し行っている。	協力医による定期的な訪問診療が行われている他、利用者の健康状態に合わせた随時の対応も行われている。併設のデイサービスに看護職員が勤務していることもあり、利用者の怪我や急変等には柔軟な支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設しているデイサービスの看護師と協力して行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連絡を取り、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	その都度、話し合う場を設けている。	ホームでの看取り支援には対応していない方針を家族にも説明が行われており、利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いが行われている。身体状態が重い方が生活しているが、現状は次の生活場所への移行支援の方が多い。	利用者や家族の中には、ホームでの生活の継続を望んでいる方があり、ホームでも可能な限りの支援が行われている。今後に向けたホームの継続的な体制づくりの取り組みにも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ご利用者の急変や、事故発生時に医師の指示を受け、適切な対応が出来る。全職員が応急手当、初期対応が適切に行えるよう定期的な訓練の機会を整える必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の防災訓練を行い、災害時に備えている。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。併設のデイサービスとの合同の訓練も実施しており、職員間の連携に取り組んでいる。備蓄品については、ホーム内に必要な量の確保が行われている。	ホーム建物の5階及び6階にあることで、利用者の避難誘導には困難が予測される。ホームの継続的な利用者の安全確保の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	否定的な言葉を使用しないように留意している。	理念にも掲げている「笑顔であんきな生活」の実現につながるように、職員による利用者への対応を意識する働きかけが行われている。また、対応が困難な方についても、職員間で検討を重ねながら、その方の自尊心を傷つけないような対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己表出ができるよう信頼関係を築き、自由に思いを出せるよう努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースで生活して頂きたとの思いは十分にあるが、時には職員側の都合が優先されてしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	御自分で化粧をされる方もみえるので、整容を声かけ、介助にて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	料理の下ごしらえ等、お手伝いをして頂いたり、食後の食器洗いを各自で行って頂いている。希望を伺いながら、職員がメニューを考えている。	職員でメニューを考え、利用者の希望等にも合わせた対応も行われている。利用者も調理、配膳、片付け等、できることに参加する取り組みが行われている。季節等に合わせた食事作りも行われている。食事の際には、職員も利用者と一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取を記録している。水分確保については、食事時以外にも飲んでいただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、就寝時への歯磨き、声かけ介助、義歯洗浄を個々に支援し、毎食後、うがいを行っている。週1回、口腔ケア、月1回歯科検診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレ介助、トイレ誘導の実施、パッドの使用や紙パンツの使用など、それぞれの状態に合わせた支援をしている。	利用者の身体状態等にも合わせた排泄記録を残し、日常的に職員間で排泄に関する情報交換が行われている。トイレでの排泄を基本に考えながら、排泄状態の維持に取り組んでいる。また、日常の体操等を通じた取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個人のトイレ時の前後の様子に注意する。食事面にて乳酸菌摂取等工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	体調に変化がない限り、全員毎日実施する。見守り、介助、各人に添った支援をし、コミュニケーションの場として位置づけている。	毎日の入浴の準備が行われており、利用者は1日おき又は毎日の入浴が行われている。入浴を拒む方には、声かけ等を工夫する取り組みが行われている。また、入浴剤の使用や季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居間で昼寝をする方、夜、テレビを見ている方、各人に添った安眠の仕方に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局の協力を得て行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事や衣類の選択を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	月1回、全体での外出行事を行っているものの、個々の希望に対しては、なかなか応じきれていない。	日常的に近隣を散歩したり、公園まで出かける等の取り組みが行われている。季節等に合わせた外出行事が行われており、公園への花見や地域で行われている行事への参加等が行われている。また、利用者の希望に合わせた外出支援も行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人の希望があれば、ご家族了承の上、お預かりしている。お小遣いをお渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個人の携帯番号を使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感のある手作りの作品の掲示、ベランダの花(先日の台風で手付かずです)室内の花などを飾っている。加湿器、除湿器の設置や照明の入れ替えなど行っている。食事中はBGMを流している。	ホーム建物の5階にあるリビングは採光に優れており、利用者は日中を明るい雰囲気でも過ごしている。ベランダにはベンチが置いてあり、見晴らしの良い眺めを楽しんでいる。また、壁には季節に合わせた飾り付けや利用者の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間にソファ、ベランダにベンチを設置している事で、休憩やエレベーターの待ち時間、日向ぼっこで利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	希望に沿って好みの物を持ち込まれたり、飾ったりして、居心地よく安心して居室で過ごして頂けるよう工夫している。	居室には家具類や収納スペースの設置が行われていることで、持ち込みのない方も生活をする事ができるが、利用者の中には、馴染みの物等の持ち込みが行われている。また、家族の写真や趣味の物等、利用者に合わせて居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内を安全に過ごして頂けるよう、ポータブルトイレ等の配置を工夫し、事故につながらないよう努めている。		